

ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 17

～医療にはスピリチュアルと心意気～



<http://hb8.seikyou.ne.jp/home/pianomed/>

テレビ番組「ER」を、

あなたはご存じだろうか？

ERとはEmergency

Roomのこと。病院の救命

救急室で数多くの患者を助

ける様子や、そこで働く医師たちのプライベートライフが、生き生きと描かれて

いる。人間味が感じられるスタンスがとてもいい。おそらく、この点が、人気が

ある一因であろう。

米国でERの経験

そのERについてだが、以前に私はERで勉強させていただいたことがある。

つまり、テレビ番組とよく似た状況を実体験したというワケだ。

20数年前、米国で患者を診察できるECFMG資格を取得した後、ミシガン州の病院で臨床研修したときのこと。ERをロー・テーションした際には、救急処置に加えて、通常あまり知り得ない救急車の詳細まで接することができた（図1）。救急車の内部には多数の救急アイテムがある。様々な処置をイメージし、機能的

に業務が進むように、棚やポータブルの救命セットの配置にも気を配っていると

いう（図2、3）。

また、地域の救急医療体制についても、おおむね把握できた。注目すべき点がある。救急車の配備は公的なものではない。実は、民間で2つの会社が救急車を出動させている。相互に競争原理が働いているのがプラスに働く構図だ。

すなわち、迅速でより高い質の救命処置を目指して、時間があれば、救急処置の訓練を繰り替えしている。たとえば、心停止の患者を発見すると、ただちに心肺蘇生ができる（図4）。



図1（救急車側面）



図1（持ち運びセット）



図2（救急車内部）

となる存在に、気づいた。それは、人の命を救う、救いたいという使命感である。さらに、その根本には、この世で生かされている間は、人々の役に立ちたいという気持ちがあるようだ。感銘を受けた第二点は、各隊員のスピリットだった

このように、常に技術を磨くという組織的なシステムが、私が感銘を受けた第一点だった。



図4（心臓の蘇生）

心電図が無線で転送

ERで驚くべき光景を目撃の当たりにしたので、紹介しよう。当時、心筋梗塞の患者が発生して救急車に運び込まれると、ただちに患者の心電図が無線でICUに送られていた。担当医師は瞬時に指令を出す。救急車の中で、救命救急士が直ちに治療を開始するのが、一般的だったから。

ある日、救急無線がERに入ってきた。心電図が刻々と変化していく様子を私はリアルタイムで観察することに。超早期に治療を開始することができたが、残念ながら容態が回復する

ことなく、病院に到着したのだった。

牧師の役割



「……」
「……」
全く予期しない展開が。医師が患者の状態を確認した後、連絡を受け傍らで待っていた牧師に「それではよろしく」と言葉をかけた。すると、牧師は、患者に付き添う家族を別室に招き入れ、ゆっくりと話し始めたのだ。

「このたび、〇〇氏は心筋梗塞でお亡くなりになられました。非常に残念であり、「この家族の気持ちもお察し致します。そもそも、人の命は無限ではなく、限りがあり、いつかは迎えがくるものです。数ヶ月間、悪性疾患で痛みに絶えるなど、苦しい経過をとる人もいれば、一方で、今回のように、

これは、家族に対する悲しみのケア (grief care, グリーフケア) である。米国では、超早期に牧師から家族に対して説明とケアがなされたりする。

医療と宗教の融合

牧師と同席していた私は、その場のやり取りと雰囲気を感じつつ、思いを巡らせていた。米国は、人種のるっぽと言われ、人々の価値感はまさに千差万別だ。逆に、共通点や共感できるものとして、キリスト教の存在や自國に対する称讃などが挙げられる。

医療の分野でも同様であり、病院やさまざまな施設はバラエティに富む。患者の状況や健康保険加入をみても、ケースバイケースで不均一である。臨機応変に何ができる程度を超えているので、すべての項目をマニュアルで決めておかねば、どうにもならない。

るためにも、病院に宗教の専門家が必要なのだろう。

牧師は8時間」と3交代で担当している。不思議に感じるが、米国では、平均的なものと言えよう。

病院は宗教から

米国の病院の設立には、歴史的にしばしば教会が関与してきている。そのため、St. Luke (聖ロカ) とかSt. Mary (聖メリ) のように、聖書で出てくる名前が繁用される。

しかし、実際には、わが国で改革の波が押し寄せてきた。緩和ケア病棟では、宗教関係者がスタッフの一員として加わり、チーム医療が実施されている。つまり、心の専門家として、僧侶が患者の話をゆっくりと傾聴し理解してくれるのだ。本人と家族にとって、きわめて有効な心の薬となる。

最近のニュースを紹介しよう。高野山大学では、スピリチュアルケア学科が新設された。旧来の価値観が大きく変貌しつつある。このうねりが、21世紀の医療の方向性を変えていくかも知れない。

のまま日本で適用しても、うまくいかないだろう。

たとえば、あなたが通う病院で、毎日お坊さんが出入りしていたら、どうか。

「この病院は寺と結託しているのか」と疑う人がいるだろう。そして、袈裟を着た僧侶が「今日はいかがですか?」と病室に回診にきたら、びっくり。「縁起が悪いから、許して」と懇願するかも。

そもそも、「健康」とは何だろうか。WHOによれば、「健康とは、完全な肉体的、精神的、及び社会的幸福の状態であり、単に疾病や障害の存在しないこと」を意味するものではないと。そのポイントは、

①体の健康 (physical)
②精神衛生 (mental)
③社会的環境 (social)

④スピリチュアル (spiritual) を加える提言があり議論された。直訳は靈性とか魂靈であり、意訳すると、心や気持ち、魂などの意味合いに近い。

ス・スピリチュアル

そもそも、「健康」とは

何だろうか。WHOによれば、「健康とは、完全な肉

体的、精神的、及び社会的

幸福の状態であり、単に疾

病や障害の存在しないこと

を意味するものではない

と。そのポイントは、

①体の健康 (physical)
②精神衛生 (mental)
③社会的環境 (social)

④スピリチュアル (spiritual) を加える提言があり議論さ

れた。直訳は靈性とか魂靈であり、意訳すると、心や

気持ち、魂などの意味合いに近い。

最近のニュースを紹介しよう。高野山大学では、スピリチュアルケア学科が新設された。旧来の価値観が大きく変貌しつつある。このうねりが、21世紀の医療の方向性を変えていくかも知れない。

日本でも変革の波

日本では医療と宗教が一体化しているが、これを

医療の分野でも同様であり、病院やさまざまな施設はバラエティに富む。患者の状況や健康保険加入をみても、ケースバイケースで不均一である。臨機応変に何ができる程度を超えているので、すべての項目をマニュアルで決めておかねば、どうにもならない。



(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)